

浄土真宗本願寺派

そ う じ ょ う ご ん き ょ う

葬場勤行

意訳・作法説明付

○は導師一人で読みます ●より共に読みましょう

帰敬式(おかみそり)

仏弟子になる儀式。生前に受式された方は行わない

出棺勤行

棺が自宅を出る前に行う。葬場勤行と併修が多い。

合掌・礼拝・経本を頂く キン二打

帰三宝偈

善導大師著。観無量寿経を注釈された観経疏の始め

に記される。仏・法・僧の三宝に帰依し阿弥陀仏の

極楽浄土への往生を勧められる。

どうぞくじしゅうとう

○道俗時衆等

今を生きる人々よ、

世尊我一心

御仏よ、私は心を一にし、

●各発無上心

自らの力で苦しみ悩みから抜け出そうとしても、

歸命尽十方

全ての世界の御仏や菩薩方を拠り所といたします。

生死甚難厭

甚だ難しい。人生は思うようにいかな

法性真如海

我々の認識を超えた真理の御仏、

仏法復難欣

我らを目当てとした阿弥陀仏を受

報化等諸仏

姿形として現れた御仏、

共発金剛志

それも承知で我らをすくいたいと誓

一一菩薩身

あらゆる菩薩方、

横超断四流

煩惱の流れを断ち、超えさせていた

眷属等無量

無数の仕える方々、

願入弥陀界

阿弥陀仏の極楽浄土に生まれたいと

莊嚴及變化

美しく飾られた菩薩や我らの為に変

歸依合掌礼

阿弥陀仏を依り所とし、合掌し念仏

十地三賢海

さまざまな段階の菩薩方、

じこうまんみまん
時劫満未満

修業期間を終えた方や終えていない
方々、

そうおういちねんご
相応一念後

それに叶う一瞬の後に、

ちぎようえんみえん
智行円未円

智慧ちえと修行が完成した方やそうでな
い方々、

かどくねはんしや
果徳涅槃者

さとりをひらかれる方々を扱あつかり所と
いたします。

しょうじじんみじん
正使尽未尽

煩惱ぼんのうが無くなつた方やそうでない
方々、

がとうげんきみよう
我等咸歸命

我らは皆、

じゆつけもうみもう
習氣亡未亡

煩惱の慣習が無くなつた方やそうで
ない方々、

さんぶつぼだいそん
三仏菩提尊

全ての御仏みほとけを扱あつかり所といたします。

くゆうむくゆう
功用無功用

努力して仏道ぶつどうを歩む方や自然と歩
む方々、

むげじんずうりき
無碍神通力

何物にも妨げられない大いなる力で

しょうちみしょうち
証智未証智

さとりを得た方やそうでない方々、

みようがらんしょうじゆ
冥加願摂受

我らを護り、おさめ取りください。

みようがくぎゆうとうがく
妙覚及等覚

最上位の菩薩ぼさつや次の段階の菩薩ぼさつ方、

がとうげんきみよう
我等咸歸命

我らは皆、

しょうじゆこんごうしん
正受金剛心

まさしく阿弥陀仏あみだぶつの信心をいただ
き、

さんじようとうけんししよう
三乗等賢聖

御仏みほとけの教えを聞ける方や独りで悟れ
る方や他を救うために努力する菩薩ぼさつ

がくぶつだいひしん
学仏大悲心

方など、御仏の大慈悲心を学び、

ちようじむたいしや
長時無退者

永く仏道を退くことがない方々を擁
り所といたします。

しようがんようかひ
請願遙加備

願わくは不思議な力によつて、

ねんねんけんしよぶつ
念念見諸仏

一念一念に御仏をお見せください。

がとうぐちしん
我等愚痴身

我らは愚かであり、

こうごうらいるてん
曠劫来流転

はるか昔より迷いの世界へと生まれ
変わりを繰り返していましたが、

こんぶしやかぶつ
今逢釈迦仏

今、お釈迦様が残された教えのおか
げで、

まつぼうしゆいしやく
末法之遺跡

混沌の時代にふさわしい教えである、

みだほんぜいがん
弥陀本誓願

我らを目当てとした阿弥陀仏の
本願や、

ごくらくしようもん
極樂之要門

極樂浄土への門に逢うことができま
す。

じようさんとうえこう
定散等回向

そこに行くための修行の功徳を等し
くいただき、

そくしやうむしやうしん
速証無生身

速やかにさとりを得ます。

がえぼさつぞう
我依菩薩藏

私は菩薩の教えや、

とんぎよういちじようかい
頓教一乘海

速やかに仏になる教えやあらゆる者
が仏になる教えによつて、

せつげきさんぼう
説偈歸三宝

この帰三宝偈を説き、三宝である
御仏とみ教えとそれを聞く方々を擁
り所とし、御仏のおこころをいただき
ます。

よぶつしんそうおう
与仏心相応

ます。

じつぽうごうじやぶつ
十方恒沙仏

ガンジス河の砂の数ほどの無数の
御仏よ、

キン一打

ろくつうしやうちが
六通照知我

すべての神通力で私をお照らし下さ
い。

なまんだぶ
○南無阿弥陀仏

キン一打

こんじやうにそんぎやう
今乗二尊教

今、お釈迦様と阿弥陀仏のお導きに
より、

なまんだぶ
●南無阿弥陀仏 ×5 キン一打

こうかいじやうどもん
広開浄土門

広く極楽浄土への門を開くことがで
きます。

がせびそん くどくじ
○我説彼尊 ●功德事

私は阿弥陀仏の功德を説く

がんにしくどく
願以此功德

願わくはこの功德によつて、

しゆぜんむへんによかいすい
衆善無辺如海水

諸々の善は海のごとくへだて

びやうどうせいっさい
平等施一切

平等に一切に施し、

しよぎやくぜんこんしやうじやうしや
所獲善根清浄者

その清らかな善を

どうほつぼだいしん
同発菩提心

同じく阿弥陀仏のすくいをいただき、

えせしゆじやうしやうひこー
廻施衆生 生彼国

皆にわけて、極楽浄土に往
生しましょう。

おうじやうあんらくこく
往生安楽国

極楽浄土に往生しましょう。

キン三打 経本を頂く・合掌・礼拝

合掌・礼拝・経本を頂く キン二打

三奉請

○奉請弥陀如来入道場●散華樂

ぶじょうみだによらいにうどうじょう さんげらく
あみだによらい

阿弥陀如来、花を降らしお迎えいたします。

ぶじょうしゃかによらいにうどうじょう さんげらく

○奉請釈迦如来入道場●散華樂

ぶじょうしゃかによらいにうどうじょう さんげらく
しゃかによらい

釈迦如来、花を降らしお迎えいたします。

ぶじょうじつぼうによらいにうどうじょう さんげらく

○奉請十方如来入道場●散華樂

ぶじょうじつぼうによらいにうどうじょう さんげらく
ほとけがた

全ての仏方、花を降らしお迎えいたします。

キン一打 作相・焼香 キン二打 表白 キン一打

正信偈

しんらんしようにん

親鸞聖人著 阿弥陀仏のすくいをまとめ、

それを伝えた七人の高僧を讃えています。

あみだぶつ こうそう

●南無不可思議光

なもふかしぎこうら

●南無不可思議光

ほうぞうぼさついににじー

法蔵菩薩因位時

ざいせいざいおうぶつしよー

在世自在王仏所

とけんしよぶつじようどいーん

觀見諸仏淨土因

こくどにんでんしぜんまーく

国土人天之善惡

こんりゆうむじようしゆしやうがーん

建立無上殊勝願

ちようほつけーうだーいぐぜーい

超発希有大弘誓

きみよーうむりよーうじゆによらいー

●南無不可思議光

いつでも共におられる阿弥

陀如来が扱ひ所です。

どこでも共におられる阿弥
陀如来が扱ひ所です。

阿弥陀如来が法蔵という菩
薩であられた時のこと

す。師の世自在王仏に導かれ、
様々な仏の国の成り立ち

や、往き方を学ばれ、その
国に住む人々をよく観察さ

れ、まだすくいから漏れて
いるものがあることを知り

ました。

そして誰一人もらすことな
くすくうための願いを立て

五劫思惟之摂受

五劫もの永い間、思案を重ね、四十八の願を誓われ、

●重誓名声聞十方

重ねて南無阿弥陀仏と名となり声となり、すべてに聞

普放無量無辺光

かせたいと誓われ阿弥陀如来と成られました。その光

無碍無对光炎王

は、限りなく、境がなく、遮るものがなく、ならぶも

清浄歡喜智慧光

のがなく、光の王であり、清らかで、よろこびに満

不断難思無称光

ち、全てを見通し、絶之間なく、我々の考えや言葉は

超日月光照塵刹

はるかに及ばず、太陽や月をも超えた光で、すみずみ

一切群生蒙光照

まで照らし、すべてのものが照らされています。

本願名号正定業

その証として南無阿弥陀仏と私の口から出るのです。

至心信樂願為因

その念仏は仏の喚び声と聞くことがすくいの源です。

成等覚証大涅槃

この迷いの身がいのちを終え、極樂へ生まれるのは、

必至滅度願成就

必ずさとりに導くぞとの願が成就されたからです。

如来所以興出世

お釈迦様や多くの仏が世にお出ましになられたのは、

唯説弥陀本願海

ただ阿弥陀如来の本願を説くためです。

五濁惡時群生海

わかっちゃいるけどやめられない迷いに生きる人は、

応信如来如実言

阿弥陀如来のはたらきに委ねるより他にありません。

のうほついちねんきあひしーん
能発一念喜愛心

ふだんほんのうとくねはーん
不断煩惱得涅槃

ほんじようぎやくほうさいえにゆーう
凡聖逆誘齊廻入

によしゆしいにゆうかいかいちみー
如衆水入海一味

せつしゆしんこうじようしよーうごー
攝取心光常照護

いのうすいはむみようあーん
已能雖破無明闇

とんないしんぞうしうんむー
貪愛瞋憎之雲霧

じよーふしんじつしんじんてーん
常覆真實信心天

そのはたらきは煩惱盛んな
私の為と慶べる時、煩惱抱

えたままで、さとりを得る
身と如来はさせるのです。

凡夫も聖者も、極悪人も、
このはたらきに任せれば

どの川もやがて同じ海にな
るように、同じさとりを得

ます。すくいのは常は常に照
らしているのです、

迷いの闇はすでに破られて
いるのですが、

貪りや怒りなどの煩惱が、
雲や霧のように、

常に真實の信心の空を覆つ
ています。

ひによにつこうふうんむー
譬如日光覆雲霧

うんむしげみようむあーん
雲霧之下明無闇

ぎやくしんけんきようだいぎようきー
獲信見敬大慶喜

そくおうちようぜつごあくしゆー
即横超截五惡趣

いつさいぜんまくほんぶにーん
一切善惡凡夫人

もんしんによらいくぜいがーん
聞信如来弘誓願

ぶつごんこうだいしようげしやー
仏言広大勝解者

ぜにんみよーふんだりけー
是人名分陀利華

しかし、雲や霧が日光を遮
っていたとしても、その下

は、暗闇ではないように、
如来に照らされています。

信心を賜り、如来のはたら
きを慶ぶ人は、

すぐに迷いの世を離れるこ
とが定まる身となります。

どのような人であろうと
も、阿弥陀如来の本願は私

の為であったと聞いて疑い
なければ、

仏は、優れた智慧者である
とたたえられ、泥の中で白

い花を咲かせる白蓮華のよ
うだと称賛されます。

みだぶつほんがねんぶ一つ
弥陀仏本願念仏

じゃけんきようまんなくしゅじよーら

邪見憍慢悪衆生

しんぎようじゅじんにな一ん

信樂受持甚以難

なんちゆうしなんむかし一

難中之難無過斯

いんどさいてんしろんげ一

印度西天之論家

ちゆうかじちいきしこうそ一

中夏日域之高僧

けんだいしよこうせしよーい一

顕大聖興世正意

みようによらいほんぜいおうき一

明如来本誓応機

あみだにょらい
阿弥陀如来のはたらきは、

自分には関係がない、不都合

合は起こらないと考えてい

る人には、

それを信じ、保ち続けるこ

とは甚だ難しいことです。

難中の難、これ以上難しい

ことはないのです。

西方のインドの菩薩方々、

中国、日本の高僧方が、

お釈迦様がこの世におでま

しになられた本当の意味を

顕され、阿弥陀如来の本願

は、まさに凡夫の私にこそ

ふさわしい教であると思

らかにされたのです。

しやかによらいようがせ一ん
釈迦如来楞伽山

いしゆごうみよなんてんじ一く

為衆告命南天竺

りゆうじゅだ一いじしゆつとせ一

龍樹大士出於世

しつのうざいはうむけ一ん

悉能摧破有無見

せんぜつだいじようむじようほ一う

宣説大乘無上法

しようかんぎじしよあんなら一く

証歡喜地生安樂

けんじなんぎようろくろ一く

顕示難行陸路苦

しんぎよういぎようしいどうら一く

信樂易行水道楽

しよか
お釈迦様が楞伽山におい

て、多くの人々に言われま

した。「いづれ南インドに、

龍樹菩薩が現れて、固執し

偏った考えをことごとく打

ち破り、すべてのものを乗

せる至極の大乗仏教を説

き、後戻りのすることのな

い歡喜地に至り、安樂（極

楽）浄土に至るであろう」

と。龍樹菩薩は、自らを当

てにする行は、山谷を超え

るような困難な道であり、

阿弥陀如来の他力の行は、

大きな船で進むような易し

い道と説かれました。

おくねんみだぶつほんがーん
憶念弥陀仏本願

じねんそくじにゆうひつじよーら

自然即時入必定

ゆいのうじようしよらによらいじーら

唯能常称如来号

おうほうだいーひぐぜいおーん

応報大悲弘誓恩

てんじんぼさつぞうろんせーつ

天親菩薩造論説

きみようむげこうによらーい

歸命無碍光如来

えしゆたらけんしんじーつ

依修多羅顯真実

こうせんおうちようだいせいがいーん

光闡横超大誓願

あみだにょらいほんがーん
阿弥陀如来の本願を疑いな

く信受すれば、弥陀のほか

らいにより、自ずと仏にな

る位に定まります。

ですから、ただひとえに

南無阿弥陀仏と称えて、

如来大悲の恩徳に、報いる

べきですと説かれました。

インドの天親菩薩は『浄土

論』という書物を著され、

無碍光如来（阿弥陀如来）

に帰依しますと告白されま

した。大無量寿経に基づい

て真実を顕かにされ、凡夫

がすぐわれる阿弥陀如来の

誓願を広く説かれました。

こーうゆほんがーんりきえこーう
広由本願力廻向

いどぐんじようしよいつしーん

為度群生彰一心

きにゆうくどくだいほうかーい

歸入功德大宝海

ひつぎやくにゆうだいえしゆしゆー

必獲入大会衆数

とくしれんげぞうせかーい

得至蓮華蔵世界

そくしようしんによほつしようじーん

即証真如法性身

ゆうほんのうりんげんじんずーう

遊煩惱林現神通

にゆうしようじおんじおうげー

入生死園示応化

ほんがーんりきえこーう
本願力の回向によつて、一

切がすぐわれることを示す

為、疑いなく受け入れる

信心を彰かにされました。

宝の海のような阿弥陀如来

の功德に入ると、

必ずや仏に成る位に定まる

のです。

極樂浄土に往生すれば、

ただちにさとりをひらき、

ただちにさとりをひらき、

煩惱のこの世界に還り、神

通力を用いて、様々な姿と

なつて、まよいの人々をす

くうと説かれました。

ほんしどんらんりょうてんしー
本師曇鸞梁天子

じょうこうらんしよぼぎつらーい

常向鸞処菩薩礼

さんぞうるしじゆじようきょーう

三蔵流支授浄教

ぼんじようせんぎようきらくほーう

梵焼仙經帰楽邦

てんじんぼさつろんちゆうげー

天親菩薩論註解

ほうどいんがけんせいがいーん

報土因果顕誓願

おうげんねこうゆたりーき

往還回向由他力

しょうじょうしいんゆいしんじーん

正定之因唯信心

中国の曇鸞大師は、梁の天子武帝が、

菩薩であると常に礼拝された方です。

ある時、菩提流支三蔵から浄土の經典を授けられ、長

寿の為の仙經を焼き捨て、浄土の教之に入りました。

天親菩薩の『浄土論』に注

釈を加え、浄土への因も果も、阿弥陀如来の誓願によ

ると明らかにされました。

往くも還るも阿弥陀如来に

よつて回向されるので、

往生の因は、ただ疑いなく

受け入れる信心一つです。

わくぜんぼんぶしんじんぼーつ
惑染凡夫信心発

しよーうちしよーじそくねはーん

証知生死即涅槃

ひつしむりょうこうみょうどー

必至無量光明土

しよーうしゆじようかいふけー

諸有衆生皆普化

どうしやくけつしよーどうなんしよーう

道綽決聖道難証

ゆいみょうじようどかつうにゆーう

唯明浄土可通入

まんぜんじりきへんごんしゆーう

万善自力貶勤修

えんまんたくこうかんせんしよーう

円満徳号勸専称

煩惱に染まる凡夫も、この信心を賜れば、まよいの身

がそのまま、さとりを開く身とさせていただけます。

そして、かならずや光満ち溢れる極楽浄土に至り、

あらゆるものを導くことができる

と説かれました。

中国の道綽禅師は、自力の聖道門でのさとりは難しく

ただ浄土門こそ、さとりの道と明らかにされました。

自力で修行をしても、到底

達成できず、完全な功德を

具えた南無阿弥陀仏を専ら

称えることを勧めました。

さーんぶさんしんけおんごーん
三不三信誨慙

ぞうまつほうめつどうひいーん
像末法滅同悲引

いっしょうぞうあくちくぜーい
一生造悪値弘誓

しあーんによーうがーいしよーうみよーうか
至安養界証妙果

ぜんどうどくみよぶつしよーうい
善導独明仏正意

こうあいじよーうさんよぎやくあく
矜哀定散与逆悪

こうみよーうみよーうこうけんいんねん
光明名号顕因縁

かいにゆうほんがんだいちかひ
開入本願大智海

素直で、二心なく、継続す
ることを懇ろに説かれ、ど

んな時代でも如来の大悲は
届くを明らかにされました

一生悪を造ろうとも、阿弥
陀如来の弘誓に遇い疑いな

ければ極樂に往生しさと
りを開けると説かれました。

善導大師は独り『觀經』の
釈尊の心を明かされました

修行者、善に励む者、悪を
犯す者、すべてを哀れみ、

如来の光明と名号がすくい
の因縁と明かされました。

本願の大きいなる智慧の海に
入り、

ぎよーうじやしよーうじゆこんごーうしん
行者正受金剛心

きよきいちねんそうおうご
慶喜一念相應後

よいだいとうぎやくさんにな
与韋提等獲三忍

そくしよーうほつしよーうしじよーうらく
即証法性之常樂

げんしんこうかいいちだいきよ
源信広開一代教

へんきあんによーうかんいつさい
偏帰安養勸一切

せんぞうしゆうしんはんせんじん
専雜執心判淺深

ほうけにどしよーうべんりゆ
報化二土正弁立

こんごうせき
金剛石のように堅固な信心
を賜り、

如来も微笑むような慶びが
起きたものは、『觀經』の

韋提希夫人と同じ、喜び、
さとり、信順の三忍を獲、

やがて極樂に往生し、すぐ
に仏となると説かれました

日本の源信和尚は、仏教を
広く学ばれた中で、

ひとえに浄土を願ひ、すべ
ての人に勧められました。

専ら本願を信じ念仏をする
人は報土へ、その他の行を

交える人は化土へ生まれる
と判別し、示されました。

ごくじゅうあくにんゆいしよつぷつ
極重悪人唯称仏

がやくざいひせつしゆちゆう
我亦在彼摄取中

ほんのうしよげんすいふけん
煩惱障眼雖不見

だいひむけんじようしよが
大悲無倦常照我

ほんしげんくみようぶつきよう
本師源空明仏教

れんみんぜんまくほんぶにん
隣愍善悪凡夫人

しんしゆうきようしよこうへんしゆう
真宗教証興片州

せんじやくほんがんであくせ
選択本願弘悪世

極重の悪人は、ただ南無阿
彌陀仏と称えるべきです。

私もまた阿弥陀如来の光明
に摂め取られているけれど

も、煩惱が障げとなつて見
ることが出来ません。しか

し、如来の大悲は、常に私
を照らすと説かれました。

源空（法然）聖人は、仏教
を明らかにされ、

善人も悪人もすべての凡夫
を憐れんで、

日本で浄土真宗のみ教えを
明らかにされ、阿弥陀如来

の本願の念仏を、この濁り
の世に弘められました。

げんらいしよじりんでんげ
還来生死輪転家

けつちぎじよういしよし
決以疑情為所止

そくにゆうじやくじようむいらく
速入寂靜無為楽

ひつちしんじんいのうにゆう
必以信心為能入

ぐきようだいいじしゆうしとう
弘経大士宗師等

じようきいむへんごくじよあく
拯濟無辺極濁悪

どうぞーくじしゆうくどうしん
道俗時衆共同心

ゆいかしんしこうそうせつ
唯可信斯高僧説

迷いの世界へ生まれ変わり
を繰り返すのは、

阿弥陀如来の本願を疑うか
らです。

速やかにさどりの世界に入
るためには、本願を疑いな

く受け入れる信心のみです
と説かれました。

浄土の教えを弘め伝えて下
さつた祖師方は、限りなく

隔てなく濁りの世の人々を
みなお導きになられます。

出家在家問わず、今の時代
の人々はみなともに、高僧

方の説を、ただ疑いなく信
じるべきです。

願がんにしくどく以此功德

どうかこの阿弥陀如来の

功德によって

平等施一切

平等に届く阿弥陀如来の

御名を聞き

同発菩提心

共にこれをよろこび

安楽（極楽）浄土に、

往生安楽国

往生させていただきまし

よう

キン三打 経本を頂く・合掌・礼拝

還骨勤行

遺骨を安置して行う勤行

重誓偈

法蔵菩薩（後の阿弥陀仏）の誓い

の要点をまとめた偈『大無量寿経』より

我建超世願

キン二打

私（法蔵菩薩）はまことに勝れた

願を建てた。

必至無上道

必ずやこの上ない悟りを得よう

斯願不満足

もしこの願いを満たすことができ

ないならば

誓不成正覚

私は決して仏とはならない

我於無量劫

私は遙かなる時をかけて

不為大施主

大いなる恵みの主となり

普濟諸貧苦

あらゆる人々の苦しみを除くこ

とができないならば

誓不成正覚

私は決して仏とはならない

がしじょうぶつどう
我至成仏道

私が仏(阿弥陀仏)となり

じんりきえんだいこう
神力演大光

大なる光を放ち

みょうしょうちょうじつぽう
名声超十方

私の喚び声(南無阿弥陀仏)がすべてを超えて

ふしょうむさいど
普照無際土

世界の隅々まで照らし

くきようみしよもん
究竟靡所聞

あなたの元に届かないならば

しょうじよさんくみよう
消除三垢冥

煩惱の垢を除き

せいふじょうしょうがく
誓不成正覚

決して仏とはならない

こうさいしゆやくなん
広濟衆厄難

多くのものをすくおう

りよくじんししょうねん
離欲深正念

私は欲を離れ、心穏やかに

かいひちえげん
開彼智慧眼

智慧の眼を開き

じょうえしゆほんぎよう
浄慧修梵行

清らかな智慧を得、行を修め

めつしこんもうあん
滅此昏盲闇

迷いの闇を滅し

しぐむじょうどう
志求無上道

この上ない道を求めて

へいそくしよあくどう
閉塞諸惡道

迷いへの道を閉ざし

いしよてんにんし
為諸天人師

あらゆる天人や人々の師となろう

つうだつぜんしゆもん
通達善趣門

悟りの門を開こう

こうそじようまんぞく
功祚成満足

くどく
功徳を満みたした仏ぶつと成なつて

いようろうじつぼう
威曜朗十方

その光は全てを照らし

にちがつしゅうじゅうき
日月戢重暉

太陽や月ですらも光りに覆われ

てんこうおんふげん
天光隱不現

天人の輝きも隠れるだろう

いしゆかいほうぞう
為衆開法蔵

人々の為ために教おしえを説とき明あかし

こうせくどくほう
広施功德宝

くどく
功徳の宝たからを広く施おそう

じようおだいしゆちゆう
常於大衆中

私は常に人々の中なかにいて

せつぼうししく
説法師子吼

勇敢ゆうかんに教おしえを説とこう

くよういつさいぶつ
供養一切仏

あらかゆるある仏ぶつを供く養ようし

ぐそくしゆとくほん
具足衆徳本

あらかゆるある功く徳とくを具ぐえ

がんねしつじようまん
願慧悉成満

願がんも智ち慧えも悉ことごとく満まんたし

とくいさんがいお
得為三界雄

あらかゆる世界せかいで最もも優よれたもの

によぶつむげち
如仏無礙智

何なに者ものにも妨さげられない智ち慧えによつ

つうだつみふしよう
通達靡不照

闇やみを照あらす仏ぶつのようように

がんがくえりき
願我功慧力

願ねがわくば私わがの力ちからも

とうしさいしようそん
等此最勝尊

仏ぶつと同おなじようでありたい

しがんにやつこつか
斯願若剋果

この願いを果たし遂げたならば

だいせんおうかんどう
大千応感動

世界は感動して

こくうしよてんにん
虚空諸天人

大空から天人達は

とううちんみようけ
当雨珍妙華

雨の様に美しい花を降らすだろう

なまんだぶ
○南無阿弥陀仏

キン一打

キン一打

なまんだぶ
●南無阿弥陀仏

キン一打

×5

がんにしくどく
○願以此功德

どうかこの阿弥陀如来の功德に
よつて

びようどうせいっさい
●平等施一切

平等に届く阿弥陀如来の御名

どうほつぼだいしん
同発菩提心

共にこれをよろこび

おうじようあんらつこ
往生安楽国

安楽(極楽)浄土に、往生させて

キン三打 経本を頂く・合掌・礼拝

ごぶんじよう はつこつじよう
御文章 白骨章

れんによしようにん
蓮如上人の手紙

それ、人間の浮生なる相をつらつら観ずるに、

おおよそはかなきものは、この世の始中終、ま

ぼろしのごとくなる一期なり。さればいまだ

万歳の人身を受けたりということをかきかず。

いっしょうす

一生過ぎやすし。いまにいたりて、たれか

ひやくねん

ぎょうたい

百年の形体をたもつべきや。われや先、人や

さき

きょう

先、今日ともしらず、明日ともしらず、おく

れさきだつ人は、もとのしづく・すえの露より

もしげしといえり。されば、朝には紅顔あり

て、夕には白骨となれる身なり。すでに無常

の風きたりぬれば、すなわちふたつのまなこ

たちまちに閉じ、ひとつの息ながくたえぬれ

ば、紅顔むなしく変じて桃李のよそおいを失

いぬるときは、六親眷属あつまりてなげきか

なしめども、さらにその甲斐あるべからず。さ

てもあるべきことならねばとて、野外におく

りて夜半の煙となしはてぬれば、ただ白骨の

みぞのこれり。あわれというもなかなかおろか

なり。されば、人間のはかなきことは老少

不定のさかいなれば、たれの人も、はやく

後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏を深く

たのみまいらせて、念仏申すべきものなり。

あなかしこ あなかしこ

人の世の有様をよくよく考えてみると、まことに

はかないものは、この幻のような一生です。いまだ

万年も生きた人を聞いたことがありません。人

生はあつというまに過ぎていきます。このような時

代に百歳まで生きるのも稀です。私が先か、他の

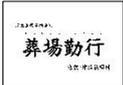
人が先か、今日かも明日かもわからない命です。

遅れて行く人、先立つ人の数は草木の雫や露よ

19

りもはるかに多いのです。ですから、朝には顔が紅らんで元気な人でも、夕べには白骨となることはあるのです。無常の風が吹けば、目を閉じて、息が止まり、顔色も白くなつていきます。家族や親戚が集まつて嘆き悲しんでも、どうにもなりません。いつまでも悲しんではいられないので、火葬し煙となつてしまえば、あとは白骨が残るのみです。哀れという言葉では収まりません。なので、人間のはかなさは老いも若きも関係がないので、だれであつても一早く、いのちの行き先を深く考えて、私の人生をすべて抱えてくださる阿弥陀如来をあみだによらい扱なり所として、南無阿弥陀仏と念仏を申しまなしあまみだによらいいよう。

読み方などわからない場合は、YOUTUBE「西光寺チャンネル」を参考にしてください。その他の勤行・節談説教・紙芝居・アニメも配信しています

西光寺チャンネル	
葬場勤行	
	

浄土真宗本願寺派西光寺

千葉県市原市根田七三二一

TEL ○四三六―二二―七四二二

✉ saikohji@saikohji.net

HP 「市原市 西光寺」で検索かQRで

